

新情報システム学体系化研究・第2回講演会の開催報告

2014年10月20日

新情報システム学体系調査研究委員会 伊藤重隆

- ◆日時 : 2014年10月7日(火) 18:00~20:00
- ◆場所 : 青山学院大学 総研ビル8階第10会議室
- ◆テーマ : 「国際社会の潮流から考察する新情報システム学の重要性」
- ◆講師 : 経済人コー円卓会議日本委員会事務局長 石田寛氏
- ◆参加者 : 13名
- ◆講演概要と所感 :

最初に講師の石田様から経済人コー円卓会議の主要な活動の紹介がなされた。活動のスケラビリティとして、インプット、アウトプット、インパクト(世界への影響力)、アウトカム(利益を出せる事)を大切にしており、また、CSRと共にPSR(Personal Social Responsibility)も重要で経営者の育成にも注力していると説明された。

主題では、まず国際社会の潮流や社会の変化、企業を取り巻く環境変化(グローバル・スタンダード・ルールへの適切な対応、ステークホルダとの良好な関係の構築、社会の変化や自社への影響を考慮したビジネスモデルの構築、適切な情報発信など)を認識することがまず重要であることが説明された。

そして、現在のCSRは10年前とは別物であることの認識が必須で、次のような観点の取り組みが求められることを強調された。

1. グローバルスタンダードの確立
2. 「社会貢献」「自主活動」から自社の社会・環境・経済への「影響」に対する責任へ
3. バリューチェーン全体での対応の必要性
4. 「人権」への対応の重要性の高まり
5. 必須項目としてのステークホルダとのインゲージメント
6. 企業任せから規制化へ

その中で、企業情報の財務情報だけでなく非財務情報を開示できない企業は存在できないとの考えを強調された。これはヨーロッパでは必須のことである。

これらのことを社会システムとして如何に実現できるかについて、その典型的な適用例として2020年の東京オリンピックにおいてサステイナブルなサプライチェーンが如何に人間中心の情報システムにより実現できるのか、を研究すべきであることを述べられた。

最後に情報システムの関係者の観点からは次のことが求められると結ばれた。CSRに関しては、未来が不確実性・不透明な世界の中でできるだけ確実性を高めるために多くのステークホルダを巻き込み議論し合い、国際的な手順に沿って合意を得てゆくことが重要である。経営者の本質は社会認識すること！、であり、社会を認識して、経営や事業

のやる／やらないを決めることである。

参加者からは、「世界のCSRの動向について理解を深められた。」「CSRはともすると慈善活動のように受け止められがちですが、ビジネスに直結していることを分かり易くお話いただきました。」「未来を見据えた企業活動を考える上での示唆に富む話であった。」などの非常に役立ったという所感や意見を多く頂きました。ありがとうございました。

このご講演内容をしっかり認識し更に深掘して、当学会が訴求している人間中心の新情報システム学に反映してゆきたいと考えています。

詳細は掲載の説明資料をご参照ください。

◆説明資料 (以下の5点)

- ・CRT説明資料 (2014. 10. 1)
- ・★【日本語】ビジネスと人権への総合的なアプローチ (Restorative approach) (2014. 9. 4)
- ・Architecture日本語版(印刷用高画質版)
- ・ポスト2015ビジネスエンゲージメント設計図の構築について
- ・日本の存在価値を高めるためにどうすべきか (2014. 10. 1)

◆問合せ先

<新情報システム学体系調査研究委員会事務局：渋谷照夫>

e-mail: shibu_t4771■kym.biglobe.ne.jp (■を@に置き換えてご使用ください。)

以上